

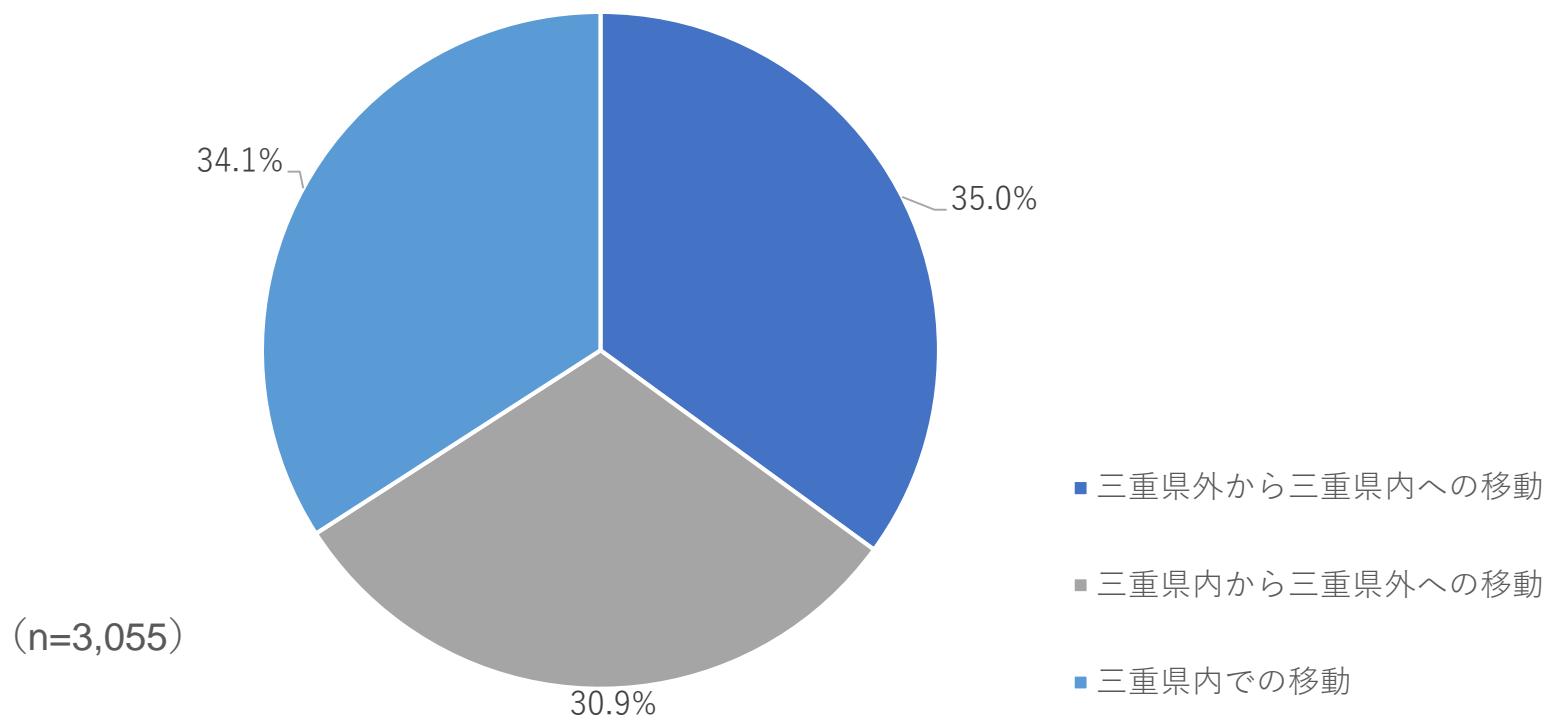
三重県における 移動（転入・転出）の理由に関する アンケート

分析結果（暫定版）

人口移動に関するアンケート結果

- ここから、人口移動に関するアンケート調査の結果について記載する。
- 回答者の移動区分に関しては、三重県外→県への移動、県内→県外の移動、県内での移動がそれぞれまんべんなく取得されている。

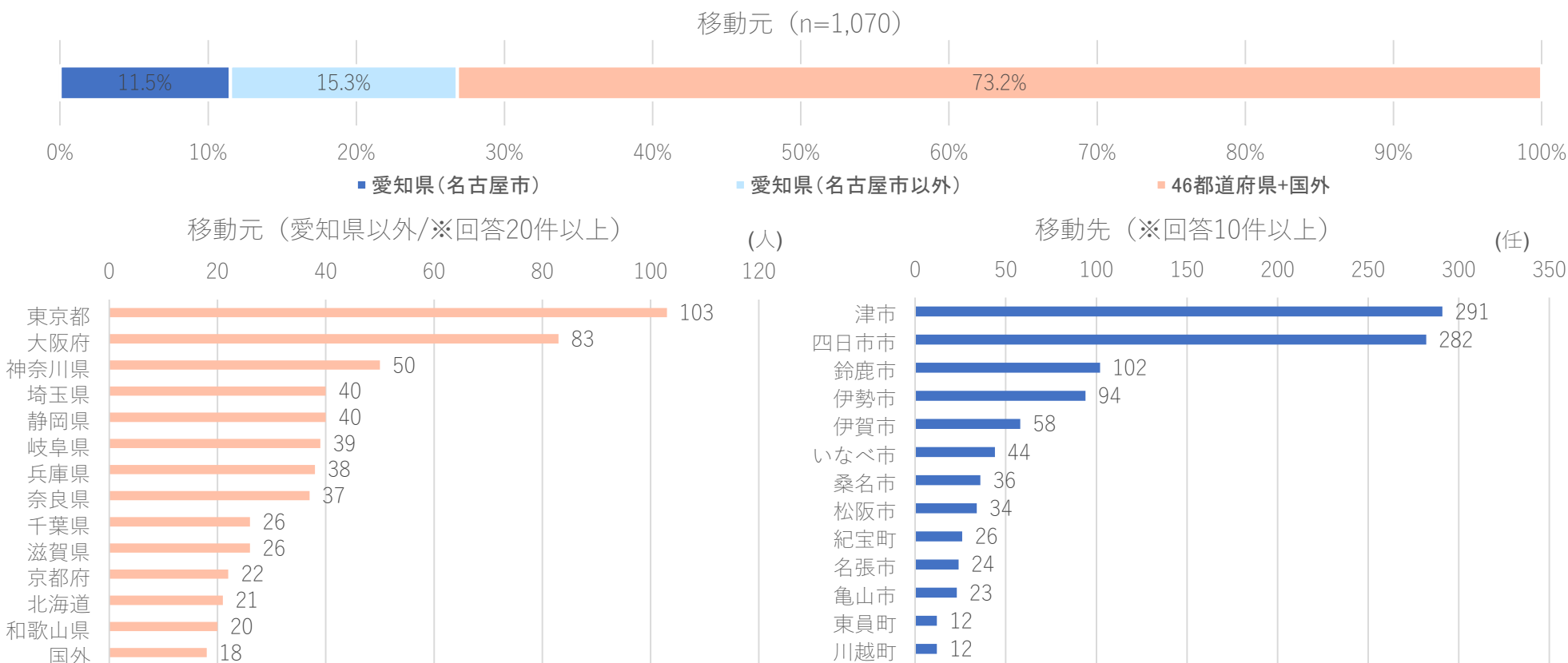
移動の区分



人口移動に関するアンケート結果

- 県外からの移動に関しては、愛知県内からの移動が26.8%。愛知県外からは関東圏、関西圏、東海圏が多く、人口の多い都道府県及び近県が多い。
- 移動先に関しては、津市、四日市市、鈴鹿市が多い。

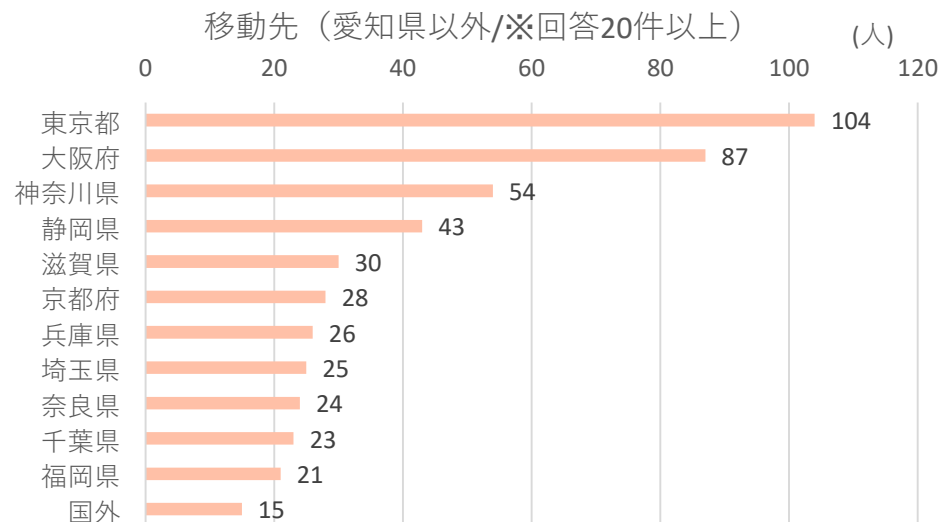
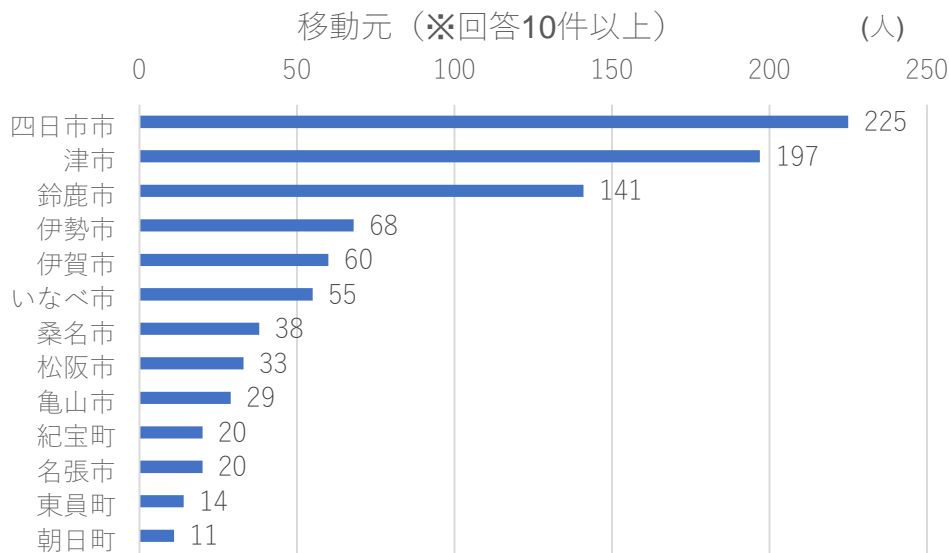
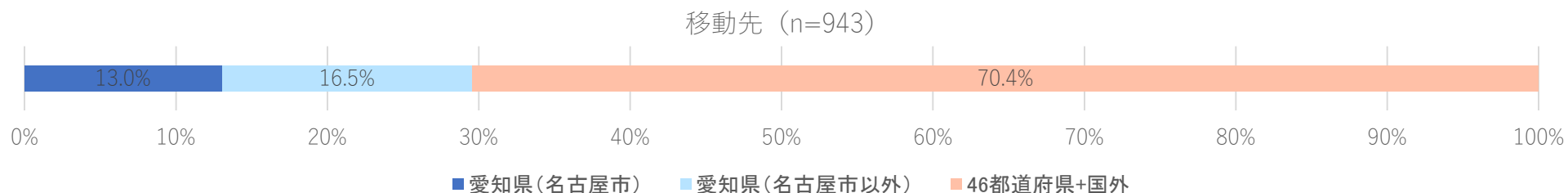
三重県外→県内の移動の傾向



人口移動に関するアンケート結果

- 県外への移動に関しては、愛知県内への移動が29.5.8%と県内への移住に比べてわずかに愛知県への移動が多い。愛知県外については、近県に比べ大都市が上位に入りやすい。（11位に福岡が入り、岐阜は20名以下）
- 移動先に関しては、四日市市、津市、鈴鹿市の順に多い。

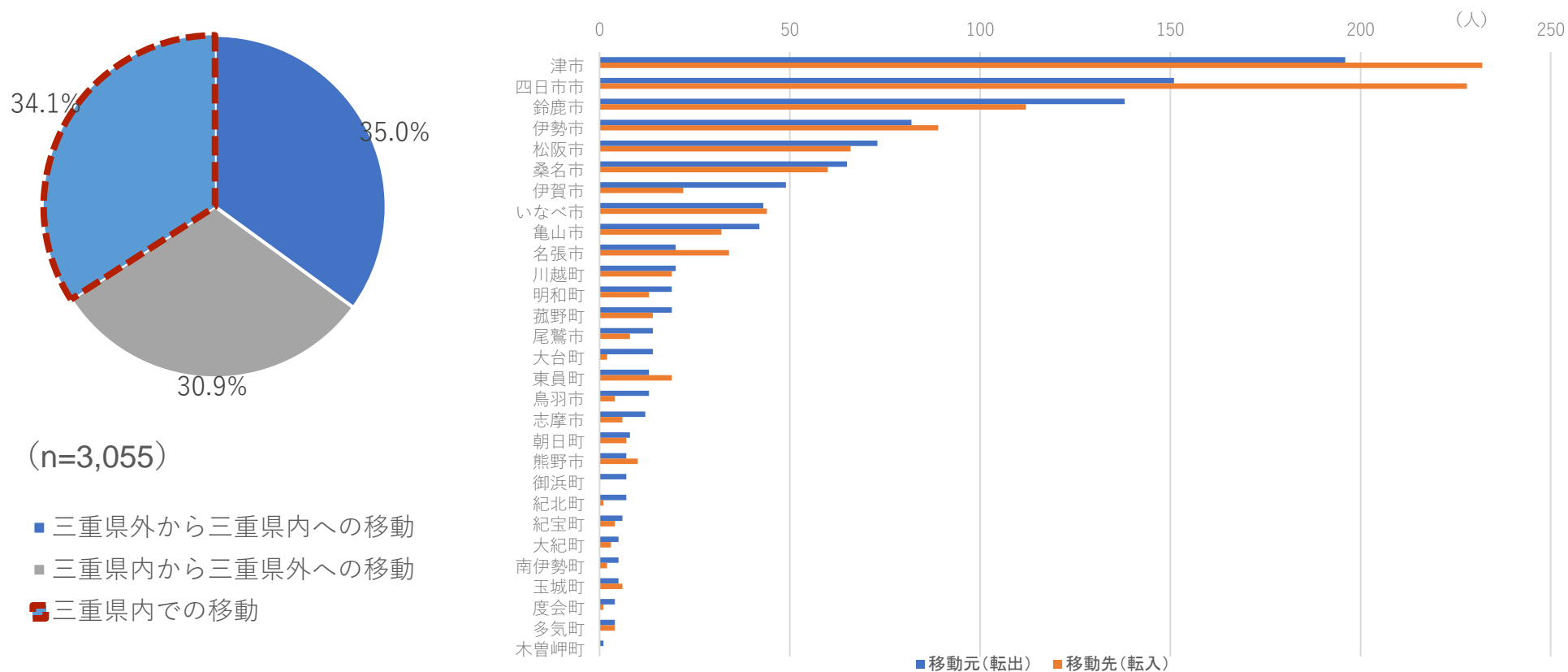
三重県内→県外の移動の傾向



人口移動に関するアンケート結果

- 三重県内の移動に関しては、津市、四日市市、鈴鹿市等の比較的大きな都市で移動が多い。
- 転入 > 転出：津市、四日市市、伊勢市、名張市、東員町等が見られるが、転入の方がアンケートの回収を得られやすいことが影響している可能性がある。

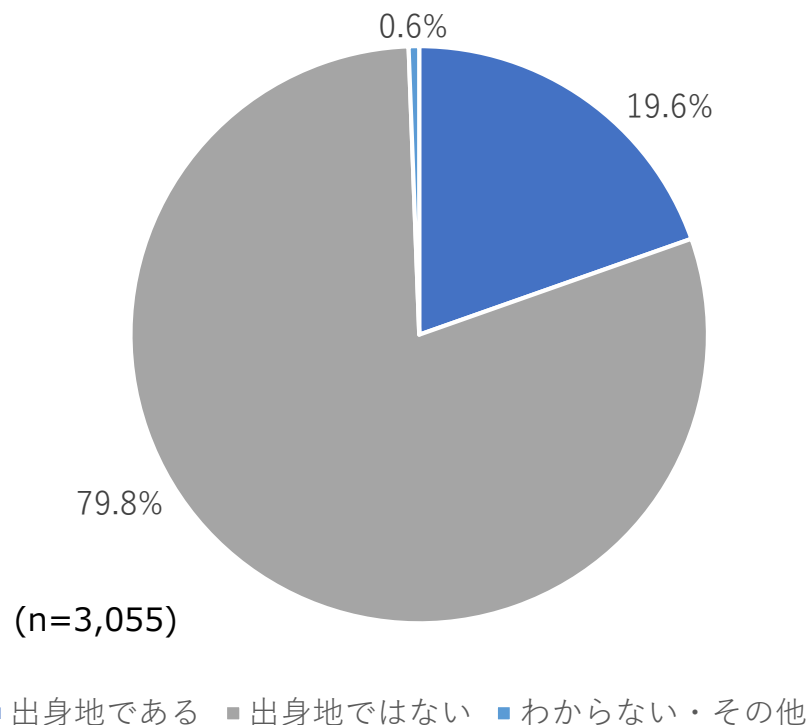
三重県内の移動 (n=1,042)



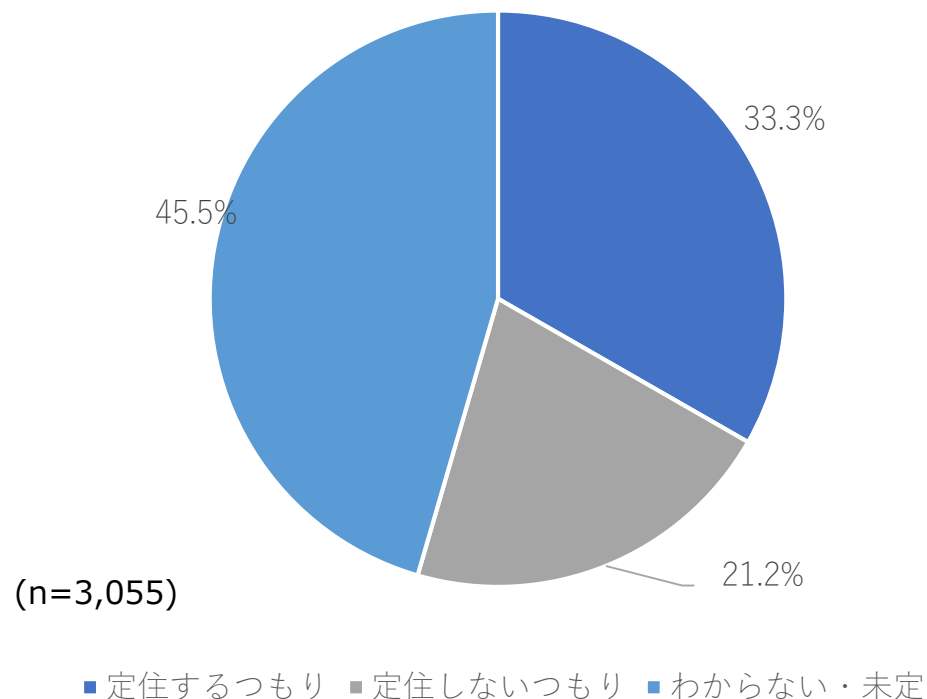
人口移動に関するアンケート結果

- 移動先が出身地である割合は、およそ20%。県外→県内の移動、県内→県外への移動に関しても同程度の割合だが、県内での移動に関しては、比較的出身地への移動の割合が多い。
- 移動先への定住意向があるケースはおよそ33.3%。後述するが、比較的若い世代の移動が多いことが影響しているものと思われる。

移動先が出身地である割合



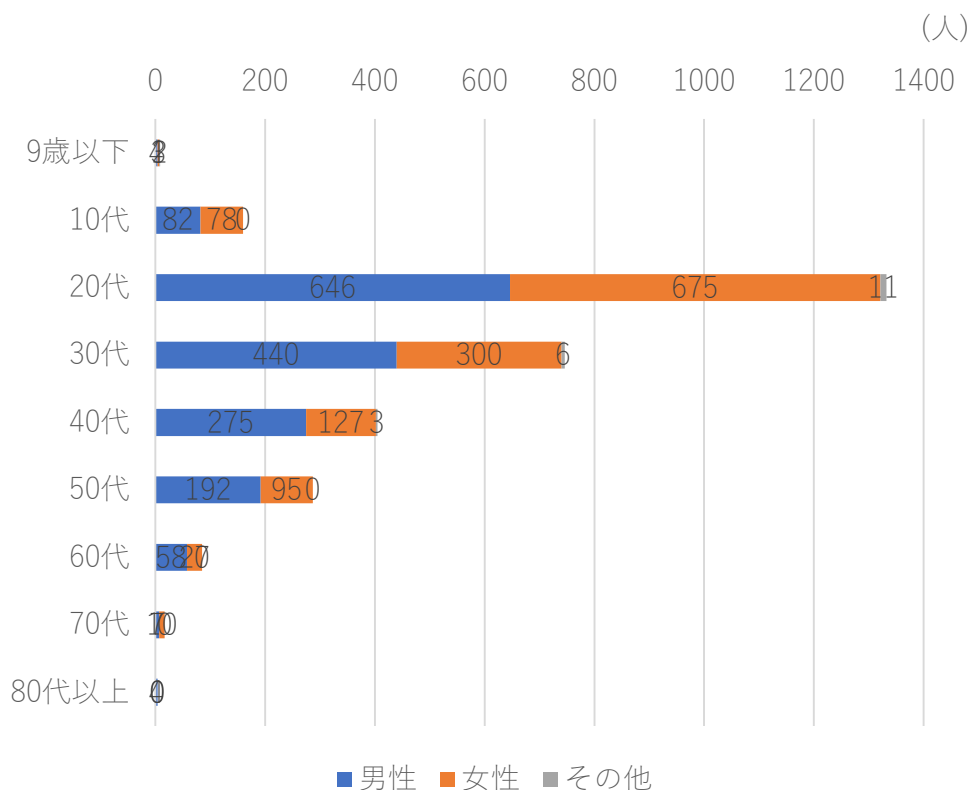
定住意向



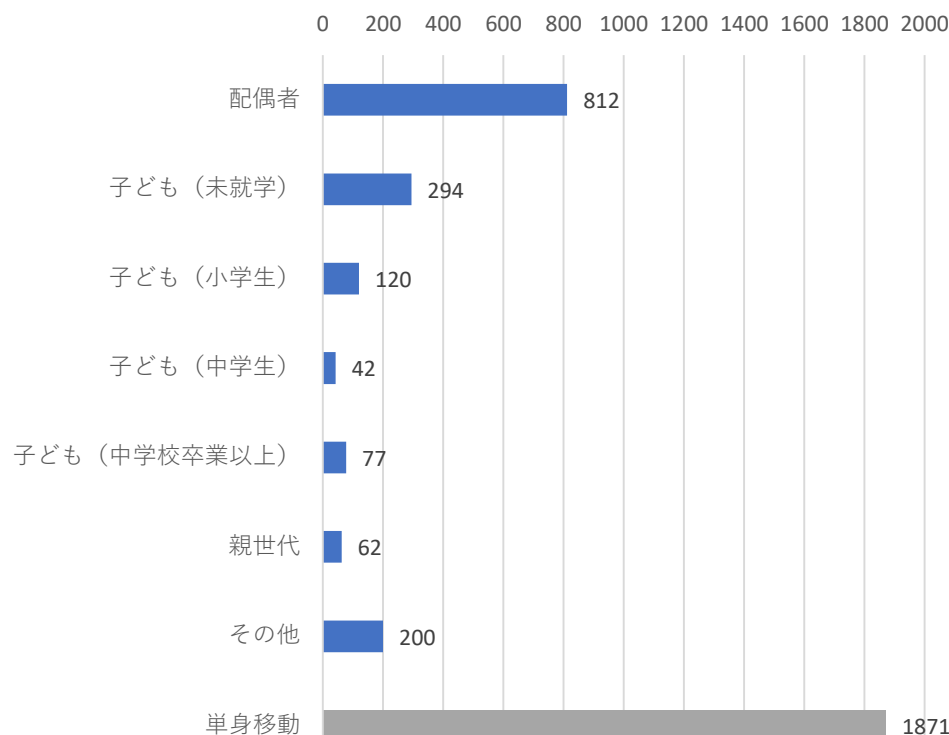
人口移動に関するアンケート結果

- 移動のきっかけとなる年代として、20代～30代の割合が大きい。20代までは男女ほぼ同じ割合だが、30代以上では男性の移動をきっかけとする割合が大きく、男性の転勤/転職に配偶者が付いていくケースが多いと思慮。
- また、同伴者の属性に関しては、子どもについては未就学の子どもと移動するケースが多い。比較的若い世代の移動が多いことも影響するが、子育て世代は子供の就学前に移住先を決める傾向にあるとの仮説が立てられる。

移動のきっかけとなった人物の属性



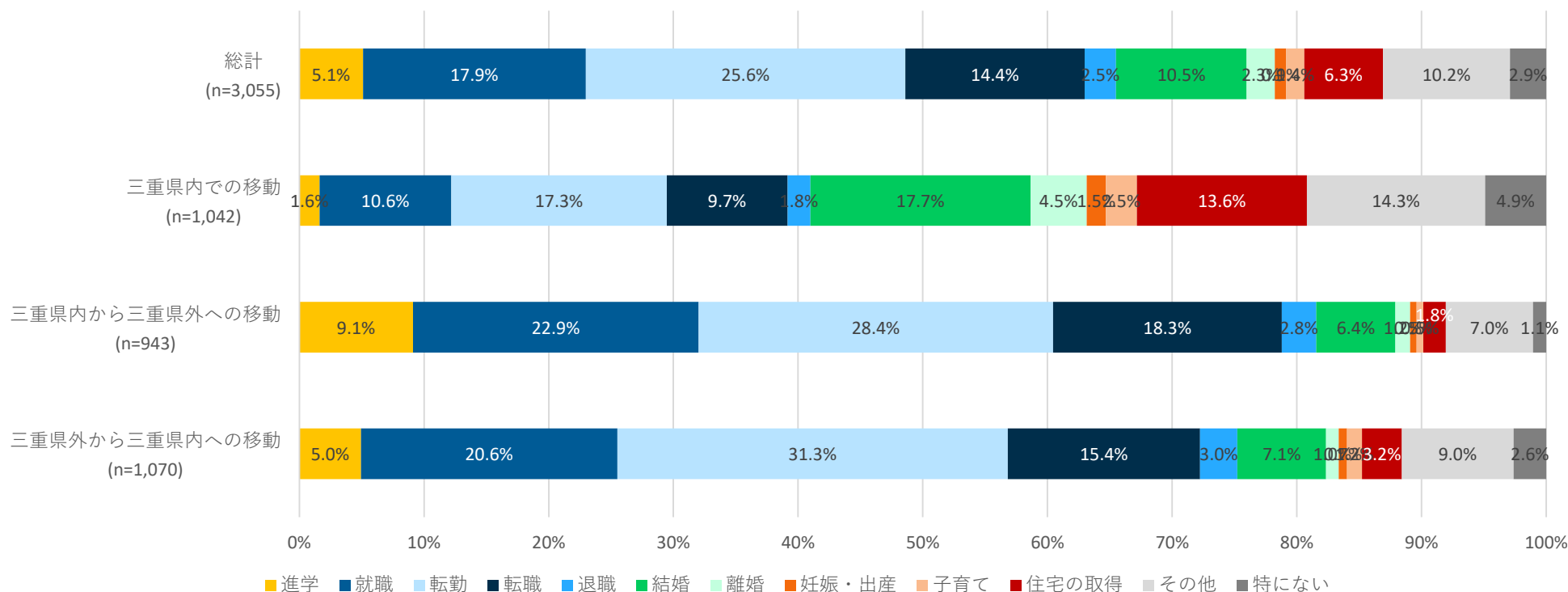
同伴者の属性



人口移動に関するアンケート結果

- 移動の大きな要因としては、転勤、就職、転職の順に影響が大きい。出産・子育てを理由とする移動は少ない。
- 県内→県外の移動では、比較的就職や転職での移動の割合が大きく、スキルを持った人材が他県に流出する傾向が見られる。県外→県内の移動では転勤の影響が大きい。わずかに住宅の取得の割合が高くなる傾向にあるため、県境の自治体では新規住宅購入のための移動が発生しているものと思われる。
- 県内の移動に関しては、進学や就職、転職の割合は比較的低く、結婚や住宅の取得が主な移動の要因となっている。

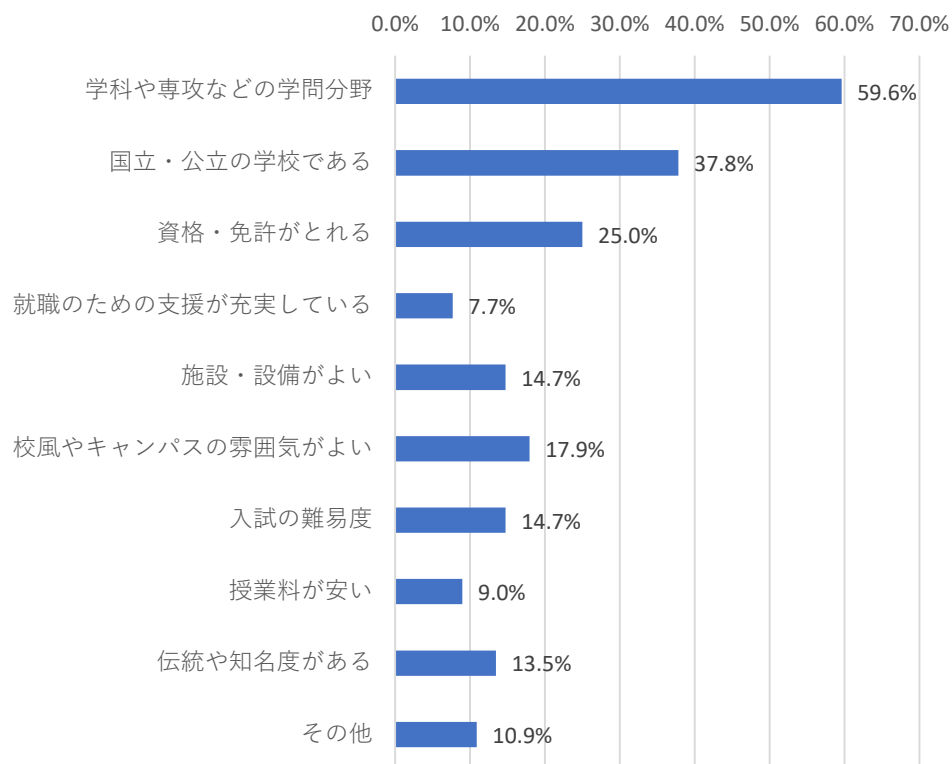
移動のきっかけ（×移動の区分）



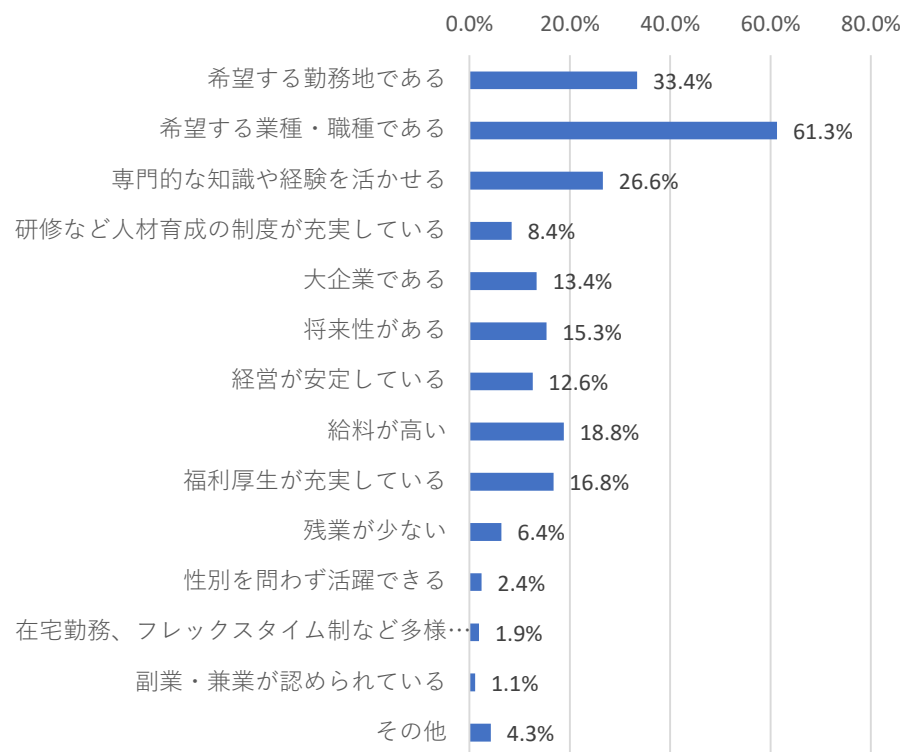
人口移動に関するアンケート結果

- 進学先の選択理由に関しては、学びたい分野との親和性、国公立であることに加え、資格・免許等の専門スキルを志向する学生が多い傾向にある。
- 就職先においても、業種・職種、勤務地等に加え、自らの専門性を活かせることを理由に挙げるケースが多い。三重県では、自らの専門的スキルをスキルアップしたいという指向性が強いものと考えられる。

進学先の選択理由(n=156)



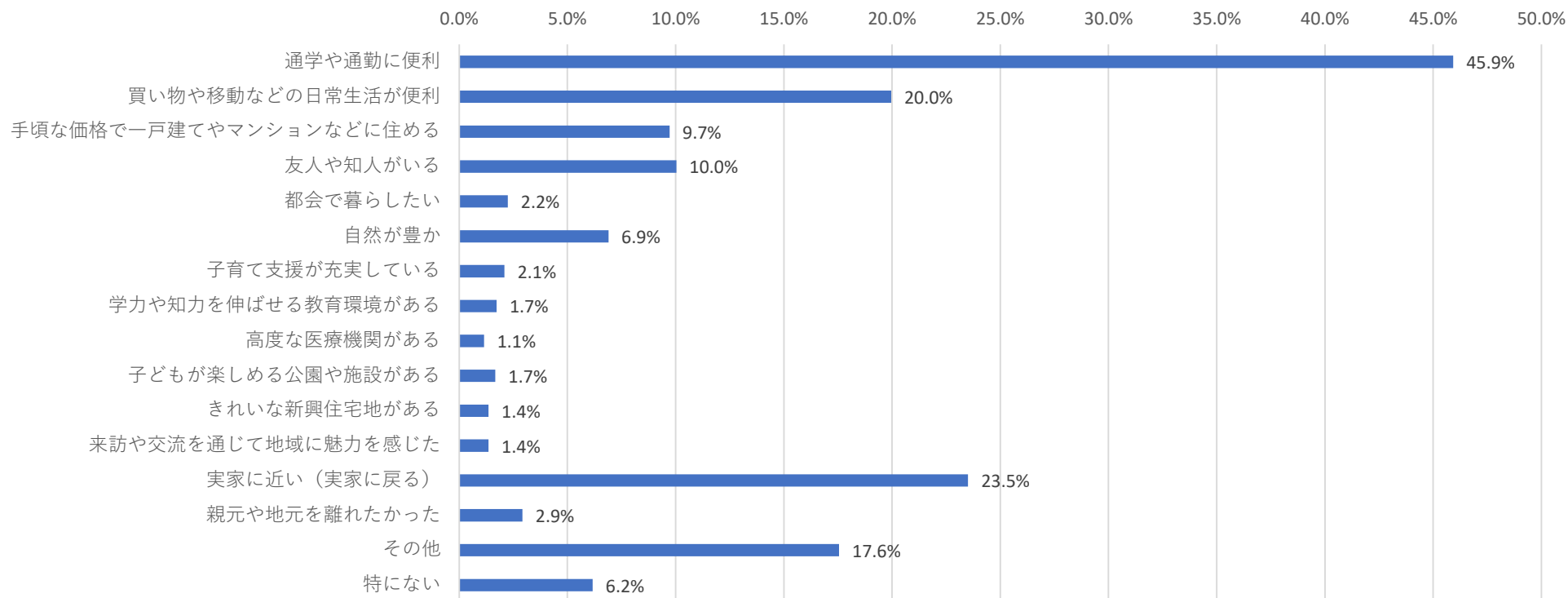
就職、転職先の選択理由(n=985)



人口移動に関するアンケート結果

- 進学、就職以外では、転勤、婚約や結婚、住宅の取得等をきっかけとして移動するケースが多い。
- 上記のケースの大きな割合を転勤が占めることから、通勤への利便性やその他（会社の指定）の割合が大きい。
- 通勤以外では、生活しやすさ（実家への近さ、買い物利便性）と入手しやすい手頃な住宅があること、自然が豊かで過ごしやすいたことが主な要因となっている。反面、子育て環境や、教育施設等の充実に関する回答は少ない。

進学、就職以外の移動の理由（n=1,914）



人口移動に関するアンケート結果：サマリー

【サマリー】

- 移動する年代として20代～30代の若い世代の割合が大きい。20代までは男女ほぼ同じ割合だが、**30代以上では男性の移動をきっかけとする割合が大きく、男性の転職/転職に配偶者が付いていくケースが多い。**
 - ジェンダーギャップの発生する要因に関する仮説とも、矛盾しない。
- 県内→県外の移動では、比較的就職や転職での移動の割合が大きく、スキルを持った人材が他県に流出する傾向が見られる。
- 三重県では、進学や就職・転職先の選定の際に、専門的なスキルを身に付け、それを活かせるかどうかを比較的重視する傾向にある。
- 子どもについては未就学の子どもと移動するケースが多い。
 - 子どもが就学前の若い世代で、いかに**スキルアップできる環境、スキルを活かせる環境を用意できるかが、移動にとって重要な要因となる可能性**がある。
- 県外→県内の移動では転職の影響が大きい。わずかに住宅の取得の割合が高くなる傾向にあるため、県境の自治体では新規住宅購入のための移動が発生しているものと思われる。
- 県内の移動に関しては、進学や就職、転職の割合は比較的低く、結婚や住宅の取得が主な移動の要因となっている。
- 上記に関しては、通勤、生活しやすさ（実家への近さ、買い物利便性）と入手しやすい手頃な住宅、自然豊かで過ごしやすことが主な移動の要因となっている。反面、子育て環境や、教育施設等の充実を理由として挙げる声は少ない。
 - **住宅が手ごろであることや生活しやすさ・過ごしやすさ**は移動の際の競争要因として寄与する可能性がある。
 - 反面、若い世代が三重県で**子育てに関する環境をポジティブにとらえていない可能性**がある。

【今後の分析】

- 三重県内の各地域と、移動のきっかけ、要因のクロス分析を実施。
→各地域ごとの移動の要因の特徴を深掘りして、施策の方向性を検討。